

平成25年度国立吉備青少年自然の家教育事業

青少年体験活動フォーラム in 吉備

平成26年2月15日(土)～16日(日)

1. 事業の目的(趣旨・ねらい)

青少年の体験活動の普及を図るため、青少年教育関係者が一堂に会し、中国ブロックの青少年教育施設での実践事例を紹介するとともに、青少年の体験活動を推進していくための実践研究協議や情報交換を図る機会を提供する。また、各施設のボランティアが相互交流を深めるとともに情報を共有することでボランティアの資質の向上を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

平成26年2月15日(土)～16日(日)

(2) 募集人員

60名

青少年教育施設職員、教育行政関係者、公民館職員
(公民館活動における青少年教育関係者)

施設のボランティア、青少年教育関係団体関係者 等

(3) 参加者

83名(応募87名、欠席4名)

青少年教育施設職員43名、施設のボランティア
(社会人、大学生、高校生含む)40名

(4) 研修内容

□基調講演

「青少年教育施設でのボランティア活動の在り方について」

講師 瀬戸内市教育委員会 教育長 藤原 一成 氏

□事例紹介

「各施設におけるボランティアの養成・育成について」

発表者 国立三瓶青少年交流の家 企画指導専門職

発表者 国立江田島青少年交流の家 企画指導専門職

発表者 国立山口徳地青少年自然の家 事業推進係員

□分科会

第1分科会 「体験活動を効果的に行うプログラムの作り方」

進行 国立吉備青少年自然の家 主任企画指導専門職



—基調講演—

第2分科会「各施設のボランティアによる活動紹介」

国立吉備青少年自然の家	施設ボランティア
国立江田島青少年交流の家	施設ボランティア
岡山県渋川青年の家	司会者による発表資料紹介
国立三瓶青少年交流の家	施設ボランティア
国立山口徳地青少年自然の家	施設ボランティア
岡山県青少年教育センター閑谷学校	施設ボランティア
国立曾爾青少年自然の家	施設ボランティア

(5) 企画・運営のポイント

基調講演では、「青少年教育施設でのボランティア活動の在り方について」と題して、瀬戸内市教育委員会教育長の藤原一成先生に依頼をした。

事例紹介では、各施設におけるボランティア人材の養成・育成についての取組やボランティアの確保の仕方、それにとまなう特色ある活動の紹介をしてもらうよう依頼した。

第1分科会では、マトリックス表をもとにアクティビティの分析やブラッシュアップに繋がるような話し合いを通して、活動プログラムを更に効果的に行うための方策を共有できるようにした。

第2分科会では、各施設のボランティアが活動例を発表し、協議することで相互交流を深め、情報を共有できるようにした。

—事例紹介「各施設におけるボランティアの養成・育成について」—



国立三瓶青少年交流の家



国立江田島青少年交流の家



国立山口徳地青少年自然の家

3. 活動の内容等

(1) 日程

	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
	15	45	20	45													
15日 (土)							受付	開会 行事	基調講演	休 憩	事例紹介	説 明	移動 休憩	情報交換会	移 動	入浴	就 寝 就 寝
16日 (日)	起床	清 掃	朝の つどい	朝食	移動	分科会	移動	昼食	閉会 行事								

(2)活動の状況

基調講演では、藤原一成先生自身のボランティア養成の豊富な経験や見識をもとに、ボランティアとは何かを幅広い視点から再度考えさせられる内容であった。双方向型の講演で、参加者との対話を大切にしながらとても和やかな雰囲気が進められた。

事例紹介では、国立の3施設の職員が発表を行った。各施設がどのようにボランティアを育成・養成しているのか、ボランティアの確保の仕方や参画や活動の場の提供、成果と課題などについて情報提供をしていただいた。

第1分科会では、最初に参加者の雰囲気作りとしてアイスブレイクを行った。その後、「より効果的なプログラム作り」と称して、各施設ごとのアクティビティをマトリックス表を使って分析し、グループごとに情報を共有しながら、利用者にとってより効果的な活動にする方法を模索した。

第2分科会では、それぞれの施設のボランティアが活動事例やボランティアの運営方法についてスライドを用いて発表をした。発表では各施設独自のかけ声や歌なども披露され、特色のある参画事例紹介や、発表後には質疑応答が活発に行われた。

4. 成果・課題

(1)成果

基調講演へのアンケートでは、藤原一成先生の「ボランティアとは志を大切にし、行動することである」という言葉が参加者にとって印象強く心に残り、自身のボランティア活動に対する心構えを再度見つめるよい機会となった。

事例紹介では、各施設における特色のあるボランティア育成・養成の過程を伺うことができた。今後の青少年教育施設におけるボランティア活動を一層促進するためのヒントとなり、施設職員と施設のボランティアにとってより意識が高まった。

第1分科会では、各施設のアクティビティをねらいに応じて見直し、分析することでより学びの高いアクティビティとなった。また、施設ごとのアクティビティに対する考え方や、提供方法の違いを交流することで、施設と利用者の活動に対する思いが合致できるようになった。

第2分科会では、各施設発表後の質疑応答において積極的に多くの質問がなされ、他施設の状況を参考にするよい機会となった。また、最後に全体のまとめの時間を設けることで、短時間では聞けなかったことも補え、各施設への質問を付箋に書いてホワイトボードに貼っていくことでスムーズに進行することができた。

参加者アンケートには、「色々な施設の職員やボランティアと意見を交流することができたことで、普段抱いている疑問や課題について考え直すよい機会となった」とあり、所期の目的を達成することができた。



— 第1分科会の様子 —

(2)参加者の声

- 事業全体に対する満足度 ……100%
- 事業のプログラムに対する満足度…100%
- 事業の運営に関する満足度 ……100%
- 職員の指導, 助言に関する満足度…100%

参加者アンケート 自由記述より

- ・ボランティアには自発性が大切だと思っていましたが, 更にその外枠には「志」が大切であると知り, 視野が広がりました。(基調講演)
- ・自身のボランティアというものの考え方を新たに知ることができた。また, ボランティアがどのように引き継いでいけばよいのかヒントをいただいた。(基調講演)
- ・各施設のボランティア養成への取組を伺えて勉強になりました。自分の施設のボランティア体制を見直すきっかけになりました。(事例紹介)
- ・青少年教育施設における社会教育の有効な実例でうなずける内容でした。青年層の組織的な社会貢献の場としてすばらしいと思いました。(事例紹介)
- ・参加型だったので, 話をする機会のなかった方とも意見を出し合えたり, アドバイスを頂けて大変勉強になりました。(第1分科会)
- ・これまで企画の立て方がよく分かっていなかったのので, これをきっかけにボランティアで提出する企画書を書けるようになりたいです。(第1分科会)
- ・自分達の活動報告をして, 質疑応答することで深くボランティアについて考えることができました。他施設の発表を聞いて, 活動を高める点や見直す点について考える意欲が湧いてよかったです。(第2分科会)
- ・同世代の人がボランティアとして活躍している様子や, 中心的な役割を果たしている様子を知ることができて, これからの活動に生かしていきたいことが見つかった。(第2分科会)



—第2分科会の様子—

(3)今後の課題等

- ・本フォーラムで取り上げたテーマの一つである「ボランティア活動のあり方」に大きな反響があった。しかし, 来年もこのテーマが取り上げられるかについては不明である。一方, このようなボランティア活動について話し合う場がないのが現状である。今後, 各施設のボランティアが集うことのできる場を設定することを検討する必要がある。

担当:企画指導専門職 村上 聖一